

諏訪町ゆっと

発行日
平成24年11月吉日 第8号
発行
『諏訪町ゆっと』運営委員会

【諏訪町ゆっと交流会が開催されました。】

去る7月21日（土）、福祉センターにおいて今年度第1回目の「諏訪町ゆっと交流会」が開催され、約40名の方にご参加いただきました。

一部講演のテーマは、ズバリ「わたしにもわかるエンディングノート入門」

講師は、ゆっと運営委員でもある社会保険労務士・行政書士の水越久吉さん。

今、旬のテーマとあって、参加されたみなさん、熱心にメモをとられていました。



そして二部は恒例の井戸端会議です。各グループ、講演を受けて遺言状や終末への準備話で盛り上がっていました。

次回は来年1月26日を予定しています。事前にご案内いたしますので、皆様是非ふるってご参加ください、よろしくお願いいたします。

（交流部会担当より）

【ゆっとNOW】

◎ 今年度の重点活動として新たに始まった地区活動はそれぞれの地区の実情を踏まえて進められており、すでに複数回の交流会を開催しているところも出てきています。

また、たんに顔合わせだけではなく、テーマを設けて勉強会を行ったりと、少しずつ特色のある活動も見られるようになってきました。

◎ 10月10日の運営委員会で会則の改訂を行いました。

主な改正点は、地区活動推進の観点から、会員間の交流を図るための会員名簿作成（第3条）と役員の任期（第5条）を定めたことです。「諏訪町ゆっと」発展のための改訂ですので、皆様のご理解をよろしくお願いいたします。



【諏訪町よもやま話し その2 「八国山の尼さん」】

八国山の尼寺には、野間円香という尼さんと弟子の妙岳尼という人がいました。(中略)

尼さんは托鉢の時は白衣の上に黒衣を着て、深い大きな笠をかぶり、どんなに寒くても草鞋履きでした。日常の食事は托鉢でいただいた米や麦や粉で、一汁一菜の質素なものでした。毎月八日には手打ちうどんやあずきがゆをふるまって下さいました。托鉢以外は外出はなく、お詣りに来られた人と話して悩みを聞いておられました。これは戦前のことです。(後略)

(森田米子さん口述 東村山市郷土研究会誌より)

【投稿】「諏訪町ゆっと」の一員として

見守りネットワーク「諏訪町ゆっと」が地域に誕生してから二年半になろうとしています。“遠い親戚より近くの他人”と昔から言われてきましたが、最近隣にどんな人が住んでいるのかも判らないという話をよく耳にします。

若い世代の核家族化が進み、昔のように一つ屋根の下に何世代もの家族が一緒に暮らしているという光景は大変珍しくなりました。ひとつ屋根の下で生活していてもそれぞれが独立した生活を営むようになりました。また、これに加えて高齢化が重なり社会生活の複雑さを拡大しております。世代を超えてお互いに助け合う生活がなかなか身内の間柄のようにうまくしっくりいかないのが実情だと思います。この難しさを少しでも和らげて安心して暮らせるようにと考え立ち上げられたのが「諏訪町ゆっと」ではないかと私なりに考えております。共助・共生の街として声を掛けてもらうのを待つだけでなく、積極的にこちらからも相手に声掛けをしてゆく事も大切であると考えています。こちらから声掛けをするということは、誰でもが知人に挨拶をするように、日頃通りすがりの人にも挨拶ができるようになると最高だなと思います。

普段の「おはようございます」「こんにちは」…声にならなかつたら、会釈だけでも出来たらよいなと思います。自分のまわりから明るい声が少しでも生まれればよいなと考えています。「諏訪町ゆっと」の輪を皆で広げよう。

(北山団地 田中 實)

【お知らせ】 「介護予防大作戦中央大会」



日時 平成24年11月15日 10時～16時

場所 東村山市中央公民館

主催 「2012介護予防大作戦in東村山」実行委員会

これは、本年6月から10月に東村山市内13町で行われた地域開催の集大成です。楽しいプログラムが沢山用意されていますので、皆様、積極的にご参加いただき、ぜひ介護予防の大切さを実感してください。



【編集後記】 「諏訪町ゆっと」は住民の方々の想いが結実した、地域の再生につながる先進的な活動です。しかし、人間関係の希薄な現在では、ひと言で見守りや声掛けといっても『小さな勇気』が必要な場面もあります。社協は「諏訪町ゆっと」の事務局として、これからも住民の方々の想いや『小さな勇気』を支え、応援する存在であり続けたいと思います。

【広報 高橋】



ご意見・ご要望がありましたら、下記事務局までご連絡ください。

【事務局】東村山市社会福祉協議会 まちづくり支援係 (TEL 042-394-6333)